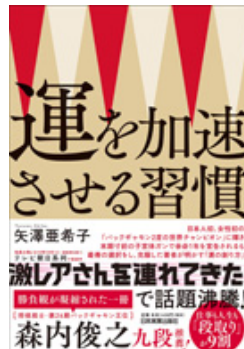


読書でビジネス力をアップする(第63回)

バックギャモン世界チャンプに学ぶ「運」のつかみ方

2020.08.06



運を加速させる習慣
矢澤亜希子 著
日本実業出版社

「運の創り方」です。スポーツやビジネスなど、すべての分野において、才能や努力ではどうにもならない「運」という要素に左右されることがあるものです。

かといって、運を天に任せて、偶然に身を委ねているだけでは、道は開けません。運という不確定な要素の存在を認めた上で、それを味方に付ける工夫が必要なのです。その方法が書いてあります。著者は、日本人初、女性初のバックギャモン2度目の世界チャンピオンです。そんな著者が「運は自分で創るもの」という信念の下、自らの経験を通して得た「勝負の本質」を教えてください。

タイトルを見た時、最初は「こうすれば運が良くなる」的なスピリチュアルな内容をイメージしてしまいました。しかし、読んでみるとまったく違いました。

真剣勝負の世界で生きてきた著者が、自ら経験し、培ったことを踏まえ、読者が日常生活で役立てられそうなエッセンスを抽出し、まとめています。

例えば、「感情的判断は間違える」「短所は伸びしろ」「疑うことが学び」「欲こそがモチベーション」などです。これらの言葉が、運を呼ぶ思考や習慣として紹介されます。

読めば、誰もが勇気をもらえる言葉に出会えるはずです。そして、運を引きつけ、利用することができるようになるはずです。結果的に、成功を手にすることができるようになるはずです。

スポーツやビジネスの勝負勘を鍛えたい人はもちろん「自分はいまいちツイていない」と思う人、「もっと運を良くしたい」と考える人などにおすすめします。

「運」の存在は、認めにくいものです。誰も「努力は報われる」と思いたいものです。だからこそ、つらい努力もできますし、頑張った人を応援したくなるからです。

でも、現実には、運に大きく左右されることがいろいろあります。スポーツでも、ビジネスでも、最後は「持っている」かどうかで決まってしまうように思えるくらいです。

かといって「努力してもムダ」というわけではありません。「運」の存在を認めた上で、その運を味方に付けられるように、努力しなければダメなのです。

では、具体的にどんな努力をすれば、運を味方にできるのか。例えば著者は、「先々の展開を想定して、できるだけ自分が有利になるように可能性を広げておくこと」が大事だといいます。

不運(思考停止)をチャンスにするための習慣… 続きを読む